

川島前代表の慰霊と行仙宿巡回整備

◇実施日 8月11日(日) 晴

◇参加者 沖崎吉信、児嶋道夫、畑林秀味・清子、阪口雄二、内野井

慎搾、大江加予子・徳子、上村和美、岡野ななみ、梶野照

雄、志岐敬、山本直子、乾克己、植平修、榊本真仁、瀧本

昭太郎、坂野良 18名

今年もこの日がやってきた。忘れることのない日であり、将来にも語り継ぐ必要のある日である。山の日であると同時に、令和元年の8月11日に川島前代表がモノレールの荷台から「荷物を降ろしてから無人でモノレールを降ろすから、次の荷物を頼む」と話したのが最後の言葉となった。その声が今でもしっかりと耳の奥に残っている。

川島功、昭和16年5月4日出生まれ、富山県出身、78年の人生だった。

その慰霊に18名の皆さんにご参加いただいた。

遠く大阪、奈良、和歌山からも8名の皆さんが参加された。

当日は下北山村役場の駐車場に集合し、沖崎より本日のスケジュールなどをお伝えし登山口に向かった。植平さんは先着して登山口で待つておられた。梶野君が外れたモノレールの運転座席を始めた。植平さんが手伝つて残っていたボルトを外したが、接着部分が外れてしまっているのですぐには修理できず、後日の修理となった。

女性陣に慰霊場所に先行していただき、お供えなどを準備していただいた。現場に全員が集まり、坂野君が導師、植平さんに脇をお願いして般若心経、本覚讚などを丁寧に唱えていただき、故人の供養をさせていただいた。皆さんからたくさんのお供えをいただいた。



外れた座席の修理



たくさんのお供えも



慰霊の読経



・ 補給路の拡幅



見違えるようになった



小屋で昼食

慰霊を終え、女性陣に小屋内外の整備をお願いして先行していただく。

今日は18名の参加者のうち、男性が12名と大人数なので、梶野君が一人で頑張っている補給路の拡幅工事をしていただいた。まず、終点の少し下にブルーシートをかけてデポしていた班丸太や杭などを第3ベンチ付近まで運ぶ。人数が多いので移動も早い。その後、ジョレンやトンガで山側斜面の裾を削って半割の丸太を土留に固定した。杭が不足してきたので、内野井君と坂野君にお願いして小屋の玄関にあるプラ杭や平板を取ってきてもらった。持ちおろした測量用のL型プラスチック杭は打ち込みも容易で長さもちょうどいい。お昼前までの1時間30分位の作業でおよそ30mの拡幅が完了した。広いところでは90cmの幅員があり、二人が横に並んで歩くことができるほどになり、見違えるほど立派になった。大人数の成果である。児嶋さんはバッテリーのディスクグラインダーで4か所の岩に切れ目を入れていた。お昼前になり作業を終えて小屋に向かう。榊本さんは十津川の実家に向かうためここで下山された。

小屋もお堂も、先行した女性陣のおかげで、大変きれいになっていた。昼食後、植平さんが下山、お盆で多忙だそう。ありがとうございました。

8月30日に東京大学学生20人ほどが体験学習のため来宿するので、行仙岳北側まで段差補修材の運搬を体験していただく予定にしている。その準備で半割の丸太16本をお堂に収納した。

メインの補給路拡幅も午前中の作業で目途がつき、成果のあった一日だった。小屋を後にして、先に下山する者、拡幅工事現場で若干の手直しを行う者と別れ、最後に道具を終点小屋に片付けて下山した。

坂野君は今日行仙小屋に泊まり、明日持経宿まで往復する予定で、持経宿にポリタンクで水を運ぶという。児嶋さんがモノレールに坂野君を

乗せて、登山口の水場までを往復した。



お堂で勤行



本日の参加者



下山

登山口で、本日のお礼を申し上げるとともに、8月25日山川さんの慰霊登山と8月30日の東京大学対応、釈迦如来像建立100年祝賀登山、熊野修験秋峰最終行程、総務省の取材協力、中前、田中両氏の追悼登山、平治宿小屋の屋根塗装とトイレ棟の屋根改修など、と行事予定は目白押しになっている。どうか皆さん、体調を整えてご協力をお願いしたい。  
(記：沖崎)

#### 行動タイム

08:30 下北山村村役場→09:10 補給路登山口→10:20 モノレール終点→12:00 行仙宿 13:24→14:10 モノレール終点→15:05 補給路登山口